

第52回 在京白聖会総会・懇親会開催概要

日 時: 2020年5月16日(土)

総会・懇親会 16時から

受付開始 15時30分より

場 所: ホテル 東京ガーデンパレス

(〒113-0034 東京都文京区湯島1丁目7-5)

参加費: 一般 8,000円/学生・院生 1,000円

(在京白聖会 令和2年度年会費 2,000円

は別途受付にて納入できます)

●申し込みは、ぜひウェブまたはスマホから
http://bit.ly/hakua2020

ホテル 東京ガーデンパレス 交通アクセス



最寄駅 ・JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口(東京駅寄りの改札)より徒歩5分
 ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」より徒歩5分
 ・東京メトロ丸の内線「御茶ノ水駅」より徒歩5分

第52回在京白聖会総会・懇親会を、5月16日(土)、御茶ノ水のホテル、東京ガーデンパレスで開催します。今回幹事を務めるのは昭和63年卒。昭和時代の最後の卒業生です。

が、その分、ご参加いただく方々のコミュニケーションの輪が広がる懇親会となるよう心がける所存です。

申込みは、①同封した「申込みはがき」の返信か、②ウェブからの申込を選択いただだけです。4月24日(金)までにご連絡ください。できるだけ、郵

在京白聖会
2020 総会

音楽に乗せて、交流広がり！
5月16日(土)東京ガーデンパレスで開催

在京白聖会報

第48号

2020年3月14日

●発行●

岩手県立盛岡第一高等学校在京同窓会

在京白聖会

会長 戸田 純

(事務局)

事務局長 藤井剛夫

〒143-0015 東京都大田区

大森西 2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379*00

E-mail: hakua_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

題字: 浅沼 一道

なお、当日は昭和63年卒の同期である、ピアニストの森知英さん、声楽家の大津佐知子さんによるミニ・コンサートを予定しています。

森さんは、東京藝術大学音楽学部・同大学大学院修士課程を修了しました。一高在学中に日本音楽コンクール入選、その後ベートーヴェン国際ピアノコンクールやショパン国際ピアノコンクール等で受賞。現在はソロ・室内楽・後進指導など活動は多岐に渡ります。



大津佐知子さん



森 知英さん

便コスト(1通78円)がかからないウェブからの申込みを優先していただくと幸いです(この場合は、申込みはがきの返送は不要です)。

大津さんは東京女子大学卒業後、一般企業を経て渡米。ジュリアード音楽院で研鑽を積み、ルブリアン・フランス音楽コンクール銅賞受賞。現在は東京室内歌劇場・東京シテイオペラ協会などを中心に、数々のオペラ・オペレッタ公演やコンサートに出演しています。

お二人のコラボレーション・コンサートは減多に聴けるものではないかもしれません。お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。

(幹事代表 昭和63年卒 中野泰)



昨年の総会懇親会風景 (2019.5.11)



在京白聖レディス会

2020年10月10日(土)

今年のレディス会は10月開催

本年開催の第16回在京白聖レディス会は、これまでの6月でなく、オリンピックが終わった秋に予定しました。食欲・芸術の秋、多くの白聖レディスの参加をお待ちしております。

開催日: 2020年10月10日(土)

受付: 11:30~

開始: 12:00~15:00

会場: Sun-mi(サンミ)高松本店

中央区銀座6-3-9 ※地下

鉄銀座駅徒歩2分(C2出口)

(電話03-5568-3300)

会費: 5千円

ゲスト: 未定



第15回在京白聖レディス会 (2019.6.22)

お願い

同封の振替用紙にて2020年度年会費2,000円のお振込をお願いします。お振込はなるべく、窓口ではなくATMをご利用下さい。



笑顔が忘れられない及川昭伍さん

東京での「偲ぶ会」の開催は、後日、在京白聖会公式ホームページにてご案内いたします。

追悼

在京白聖会
顧問

及川昭伍さん(S25卒)のご逝去

及川昭伍さんが2月14日(金)、午前11時9分、永眠されました。葬儀は盛岡で行われました。ご逝去を悼む声が多く、東京で「偲ぶ会」が行われる予定です。

2月18日(火)、午前11時から盛岡市北山の源勝寺で行われた葬儀には、在京白聖会を代表して副会長の三浦千波さん(S50卒)が弔辞を捧げました。在京白聖会を立ち上げ、リーダー

シップを発揮して今日の礎を築かれたこと、白聖芸術祭創設など、いつもにこやかな笑顔で後進を導いてくれた及川さんのお人柄が偲ばれる弔辞に、多くの参列者が涙しました。

2019 白聖芸術祭



賑やかに、令和元年の芸術祭

戸田忠祐さん(S20卒) 講話など催事も多彩に
第12回白聖芸術祭は、令和元年12月2日(月)から7日(土)まで、神田駿河台の文房堂4階ギャラリーで開催。会場ではミニ・コンサートや講話、朗読、同期会など多彩なイベントも行われ、大勢の皆様にご来場いただきました。
なお、第13回目の今年は同会場で12月7日(月)〜12日(土)に開催の予定です。



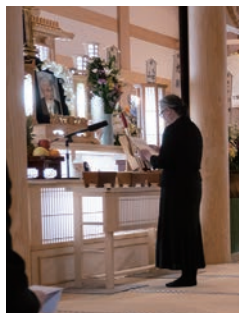
搬入・会場設営を終えて(12月1日)



S20 卒戸田忠祐さんの講話「盛中4年卒 ダダの家から」(12月6日)。「昭和20年4月、盛中を4年で卒業させられたのは中学生を兵隊として送るためであった」と、盛中4年卒の意味を語ってくれた。



●写真左●
S47卒メンバーによる「Hakua47」ミニ・ライブ(12月6日)
●写真下●
芸術祭最終日(12月7日)



及川昭伍さんの葬儀で弔辞を捧げる三浦千波さん

及川昭伍顧問の逝去を悼んで

在京白聖会会長 戸田 純

在京白聖会顧問及川昭伍氏(S25卒)が2月14日、かねて病氣療養中のところ逝去されました。享年89歳(満87)でした。在京白聖会を代表しお悔やみ申し上げます。

及川さんは、昭和44年の在京白聖会設立の時から世話人として参加され、会長制になった平成8年に初代会長に就任されました。平成16年まで会長を

務められた後は、顧問として私たち後輩を指導して下さいました。また、昨年発行した『在京白聖会 50年のあゆみ』の編集においても、常にリードして下さいました。

在京白聖会50年を牽引していただき、ほんとうにありがとうございました。及川さんがよくおっしゃっていた「みんなで楽しくやればいいんだよ」の精神を受け継ぎ、在京白聖会を楽しめる会として続けていくことを約束しますので、安らかに眠り下さい。

及川昭伍顧問の思い出

在京白聖会事務局長 藤井 則夫
在京白聖会50年の歴史の中で、及川顧問の果たした役割は皆さんが一樣にお話しして下

さるように、絶大なものです。なかでも現事務局が接した記念誌編纂を通じての顧問像は、卓越したその予知能力です。ご自身の余命を予期していたと思われるスケジュール運び、過去の記録と記憶の確かさ、そして厳密なレビュー姿勢、仕上げてからの会員配布、贈書方針、実施状況、すべてを見届け安心なさって入院されました。
残された私たちが在京白聖会には、できる限りこの精神を承継し末永く伝えることをお約束し、今は、唯々ご冥福をお祈りするばかりです。

在京白聖会50年記念誌を頒布しています！

50年記念誌編集事務局
岩澤新治(S45卒)

昨年、在京白聖会創設50年を迎え、50年の歩みを記した記念誌を発行しました。年会費を納めた約1200名の方々に冊子をお分けしましたが、まだ余部が若干残っております。ご希望される方は、二千円にて頒布しておりますので、左記あてにご連絡ください。

(お申込み先: 080-7518-1665
hakua1970@gmail.com 岩澤)



『在京白聖会 50年のあゆみ』2019年2月21日発行 会員頒布 価格2,000円(税込)

2019白聖芸術祭ミニ・ギャラリー



▲三浦千波 (S50卒) 〈みちのくの風景〉

▲及川昭伍 (S25卒)
(左・青磁釉筆筒/右・染)

※右の鳥獣戯画が
絵付けされたマグ
カップ。及川昭伍
さんの最後の作品
となりました。



▲伊藤 総 (S55卒) 〈紙工作・すずめ〉



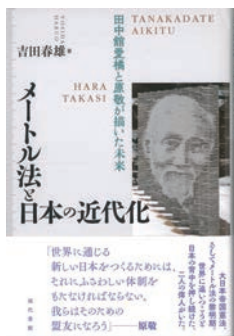
▲福田 隆 (S40卒) 〈御岳と黄葉〉

新刊紹介

『メートル法と日本の近代化』
―田中館愛橋と原敬が描いた未来―

芸術祭で自著を紹介する吉田春雄さん

吉田春雄さん (S38卒) のドキュメンタリー小説『メートル法と日本の近代化―田中館愛橋と原敬が描いた未来』が現代書館から出版されました。明治維新以来混乱していた度量衡法を大正10年に改正し主たる単位系をメートル法にした紆余曲折と、愛橋と敬の男の友情を描いています。この法改正は地味なものでしたが、その後の日本の近代化に大きく影響しました。



四六判上製 本文 216 頁

本書は一般書店で定価1800円+消費税で販売されていますが、母校盛岡一高卒の大学生を対象に「奨学生制度」を創設した須藤鷹千代さん (S37卒) の支援により盛岡一高卒業生 (在校生含む) には送料込み1000円で提供いただけます。希望者は吉田さんのメールアドレス h5174yoshida@gmail.com に氏名、(〒)宛先、電話番号、連絡先メールアドレス、冊数を連絡すれば出版社から送本、お支払い方法もご案内されます。

白聖関係者に
特別価格で提供

何かとフラストレーションの溜まる昨今、スカッと気分転換したいならこの一冊。赤穂事件を現代に移し、ODE案件を舞台に異に嵌められた社長を47人の社員が救い、乗っ取られた会社を取り戻す。建倉ワールドは、ハッピーな結末が約束され安心して読める。奇想天外な計画やスケールの大きさもさることながら、細部のリアリティーに手抜きがなく、一気に最後まで読ませる。「令和忠臣蔵」の魅力にとっぴり浸かり、鋭気を養ってもらいたい。



光文社 1800円+税

令和忠臣蔵『蟻たちの矜持』
建倉圭介さん (S46卒) の痛快企業小説

また、当歌会では白聖芸術祭最終日に恒例の野口田鶴子さん (S40卒) による宮沢賢治と白聖歌会の作品の朗読を行っています。さらに2019白聖芸術祭では戸田忠祐さん (S20年次4年卒) に「盛中4年卒 ダダの家から」のテーマで語っていただく講話会を実施しました。会場には昭和20年卒の同窓4名がご来場下さり、生徒勤労動員の体験談など、貴重なお話を伺いすることができました。

白聖歌会RURUはWEB歌会「白聖歌会の部屋」を拠点に交流を図っています。「白聖歌会の部屋」にはどなたでも作品を投稿できます。



油彩の展覧作品を背に、講話をされた戸田忠祐さん (左)

WEB歌会で交流

戸田忠祐さんご講話も実施

白聖歌会RURU

編集後記

▼在京白聖会創立メンバーで初代会長、そして生き字引でもあった及川昭伍さんが2月14日、安らかな眠りにつかれた。急ではあったが、今号は追悼の気持ちを含めて写真等はできるだけ及川さんが写っているものをピックアップした。振り返れば、在京白聖会の活動の中心には常に及川さんのやさしい笑顔があった。あの笑顔に導かれて在京白聖会の今がある。困難に直面しても、あの笑顔を思い浮かべれば乗り切っていけるだろう。▼新型コロナウイルスの広がり、会合や外出が予断を許さない状況になった。正しく恐れ、冷静な判断が求められている。こういう時だからこそ笑顔を決意し、いかようにも対応できるように備えたい。(Y)



2019白聖芸術祭での戸田さんの講話に集まれた昭和20年次4年卒の大先輩。左から鈴木明久さん、戸田忠祐さん、増田真郎さん、及川昭伍さん (S25卒)、佐藤昭二郎さん (S20年次5年卒)